

テキサスの電力市場・電力システム -2019年猛暑・2021年大寒波への対応-

概要

米国の送電線運用の要諦は、送電線の混雑を回避しつつ経済的な発電設備を選択することであり、卸市場取引結果が反映される。これがISO/RTOシステムの核心であり、系統運用と市場運用は一体化している。卸市場機能を最大限利用するのが容量市場をもたない「エネルギーオンリー市場」のテキサス州ISOのERCOTであり、このメカニズムを解説する。

加えて、2019年夏の価格高騰や2021年2月の大寒波による停電の動きを俯瞰しながら、価格機能効果やERCOTが信用される理由、競争モデルの評価に至るまで分析を行う。また、競争市場におけるビジネス機会拡大の現状についても解説する。

テキストは、オリジナルのパワーポイント資料及び2021年8月にリリースされた『テキサスの電力市場・電力システム～価格高騰・大規模停電でも揺るがぬ信頼～』を用いて、講師は著者である山家公雄氏が担当する。

講師

山家公雄

エネルギー戦略研究所(株) 取締役研究所長
京都大学大学院特任教授
豊田合成(株) 社外取締役

対象者

- ・海外電力ビジネスに携わる方（テキサスを含む米国も欧州も、電力システムの基本的考え方は同じ）
- ・海外電力事業に関し参入・拡大を考えている方
- ・電力市場の価格機能について深く学びたい方
- ・国内電力市場の展望が分らず悩んでいる方
- ・コンサルや金融機関などで電力事業に関わる方

日時 場所

日程：2021年11月17日（水） 13：30～16：30
オンラインで開催（TEAMS）

費用

会員：11,000円(税込み) 非会員：16,500円（税込み）
・テキスト「テキサスの電力市場・電力システム」込みの値段。